



JSQC ニュース

No.260

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス (財)日本規格協会との新しい取り組み
- 2-私の提言 Q-Japan構想 - 強い現場 -
- 2-ルポルタージュ 第93回(中部支部44回)講演会ルポ
- 3-わが社の最新技術/3月の入会紹介
- 4-行事案内/論文募集

(財)日本規格協会との新しい取り組み 品質管理検定制度

JSQC庶務委員長・早稲田大学理工学部 棟近 雅彦

この度、品質管理学会は、(財)日本規格協会(以下、規格協会)との共同事業として、品質管理検定制度を開始することにした。制度の詳細については正式決定されていないが、近々にこの事業の運営主体である規格協会から公式の発表がある予定である。細部については変更もあり得るので、速報という形で本制度について紹介することをご理解いただきたい。

この制度は、もともとは規格協会が企画し、検討を進めてきたものである。これは、企業のものづくりに関わる品質管理に関しての底辺層の底上げによる品質意識向上、製品品質の向上を目的としている。また、JISマーク認定工場の制度改革とも若干関連している。JISマーク認定工場の認定を受けるためには、工業標準化品質管理推進責任者を選任する必要があった。しかし、制度の改革とともにその義務がなくなり、資格そのものはなくなることになった。品質管理に関わる資格制度は、民間では一部行われているものの、この制度がなくなれば品質管理の推進に一定の成果を収めてきた仕掛けの一つがなくなることになる。今回提案する検定制度は、必ずしも工業標準化品質管理推進責任者を引き継ぐものではないが、これまで品質管理の推進に大きく寄与してきたものであるから、そのフォローアップも一つのねらいにしている。

品質管理学会では、長期計画委員

会でパブリシティの向上を一つの課題として議論していた。そのための一つの方策として、規格協会からこの検定制度を協力して運営してはどうかのご提案があり、理事会を中心に検討を進めてきた。そして、後述するいくつかの意義があることから、共同運営に参画することを決定し、運営にあたっての覚書を規格協会と交わした段階である。

この制度は、品質管理と標準化についての知識レベルによりいくつかの級を設け、級ごとに筆記試験を行い、得点が基準点を満たしていれば認定書を発行するものである。知識の内容としては、統計的方法、品質管理技法、標準化、管理・改善の考え方などである。当面は、このような知識レベルを評価することになるが、問題解決能力や指導力、管理能力などは筆記試験のみでは評価できない側面も多いので、面接、論文などその他の評価方法を将来的に取り入れることも視野に入れている。

学会としては、運営委員会に委員を推薦し、制度そのもののあり方について意見を述べるとともに、試験問題作成などに協力していく予定である。試験の合格者は規格協会、品質管理学会の双方が認定し、発表することになる。

この制度は、企業においては、教育計画・人事計画、品質管理教育計画立案、社員・派遣社員などの採用時の評価、社内研修の効果確認、品質管理に対する意識高揚、品質管理レベルの向上などに活用できる。

検討のきっかけは学会のパブリシティの向上であるが、品質管理の推進・発展に寄与するかという視点が大切であり、理事会でもその点を中心に議論した。特に、①当学会の事業目的に沿っているか、②社会的貢献に寄与できるか、③パブリシティの向上等メリットのある事項は何か、④結果の質を保証できるか、⑤当学会にとって過度な負担とならないかという観点から、検討を加えた。①②に関しては、本制度は品質管理の発展に寄与するものであり、品質立国再生のためにも有効と考えられる。③については、認定主体として当学会の名前が出ることも重要であるが、品質管理技術者の底辺が拡大して、結果として当学会への入会者が増えることが期待できる。④については、運営委員会へ参画して意見を述べるとともに、試験問題作成にも参画し、最低限の知識レベルの保証は可能である。⑤については、事業運営の主体は規格協会に担っていただくので、特に問題はない。飯塚会長は、Q-Japan構想を掲げており、その方針とも整合するものである。

現在はっきりしているのは、規格協会と当学会の2団体が運営に関わるということであるが、他の関係諸団体にも協力、支援をお願いしている。多くの関連団体から幅広く意見を取り入れることで、この制度をより充実したものにすることが期待できる。なお、詳細情報は規格協会ホームページ(<http://www.jsa.or.jp>)にアクセスされたい。

私の提言

Q-Japan構想 強い現場

サントリーフーズ株式会社 岩田 修二



現在、品質管理学会は運営方針の中核にQ-Japan構想を据え、その具現化への活動を展開している。TQCからTQMへの変革を促した環境変化への的確な対応と、持続可能な成長を目指すQMSの確立であり、品質立国日本再生への道と位置付けられている。

構想の範囲は多岐にわたるが、「日本の製造現場の実力は落ちている?」という問題認識が底流にある。産業界からの現場力に関する問題指摘・改革提案も多く、強い現場作り・強い現場の再生が、この構想具現化の

成功の鍵とも思える。

現場力の源泉は現場・現物・現実の三現主義の実践であり、日本のお家芸でもあったが、この三現主義の実践にも陰りが見えているという指摘も多い。メディアで派手に取り扱われる基幹産業での事故・事件は、この陰りを一層際立たせている。

企業・製品の競争力の低下という非常にシリアスな問題は、自らの現場力の実態を経営が把握できていなかったことが主要因であるとの認識をするべきであろう。

日本の現場力は、日本特有な能力・資質をもつ構成員による小集団活動（現場での全員参加型活動）に支えられてきたといえよう。しかし、徹底した省人化・ハイテク設備化、徹底した連続作業、徹底したアウト

ソーシング等の徹底効率化の流れと、結果としてのハイテク設備と単純作業の現場での共存等は、小集団活動への負荷を確実に高めている。このような現場の状況が、対応を取れる権限のあるマネジメントに「見える」ことが最重要課題となる。現場主義が浸透している企業とは、経営レベルでこれら現場の負荷が把握され、必要な場合、必要な経営レベルでの意思決定による措置がとられている企業である。一連の現場を取りまく環境の変化に経営が適切に対応した企業のみが、強い現場をもち、強い競争力をもった強い企業として持続した成長を遂げていると思える。

TQM先進企業の共通点は、会長・社長といった経営トップ中のトップが、現場について熱く語り、われわれに感動を与えてくれることである。強い現場を目指した小集団活動に関して、それらの企業をベンチマークとし、熱く燃えたTQCの時代を思い起こし、論議を重ねることが必要となろう。

第93回中部講演会
ルポ

「日本のものづくり」における競争優位を確保するために

2005年3月9日(水)第93回(中部支部44回)講演会が愛知県刈谷市にあるシャインズにおいて開催された。今回のテーマは「日本のものづくり」における競争優位を確保するために - 「問題・課題解決力」「マネジメント力」の育成・強化 - であった。会場は開始時刻前に満席近くになり、参加目標100名に対し出席者は145名であった。國澤中部支部理事の挨拶後、下記の講演が行なわれた。

講演Ⅰ「問題の問題は人 - 問題解決の進め方 - 」

(株)ソプロ研究所 代表取締役 鈴木 進氏

問題解決にあたって、発生する問題の因果関係を把握する方法には要因が既知の場合と未知の場合がある。未知の場合は、比較しながら過程を遡り要因を把握する方法や前工程を比較しながら分析して要因を把

握する方法などをはじめ、問題解決のアプローチの仕方についていくつかの事例を通して講演頂いた。従来のQCストーリーだけでは解決しにくい問題について問題の解き方や自ら問題の認識ができるようになるためにはどうしたらよいかの話で、晴天の霹靂であった。

講演Ⅱ「グローバル競争に勝ち抜く戦略 - 技術力&マネジメント力革新で最強のコア・コンピタンス創り - 」

アイシン精機(株) 参与 TQM・PM推進室 室長 伊藤 要蔵氏

日本の製造業が勝ち抜くための方策からはじまりトヨタグループ&アイシングループのTQM活動・方針管理の実践事例の紹介。アイシン精機(株)が最強のコア・コンピタンス(「独自の技術と改善力」+「マネジメント力」)創りをするために、企業文化としている経営上の信念、価値観、行動原則並びにTQM成功の秘訣、継続的に実践している教育(技術・技能・SQCなど)を具体的な事例で講演され、トヨタ&アイシングループの品質体質が磐石であると感嘆した。

服部 裕(株)竹中工務店)

わが社の最新技術

超親水性精密印象材 「フュージョン」

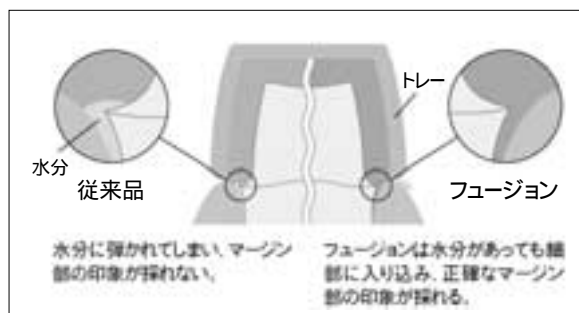
(株)ジーシー 経営企画室
村上 伸

例えば虫歯になり、歯科医院で治療を受けたとします。軽い場合は虫歯の部分を削り、セメントやプラスチックを詰めます。重い場合は歯冠全体を削って型取りし、その削った部分を金属や瀬戸物などに置き換えることとなります。この型取りのことを歯科では印象採得といい、印象採得のために使用する歯科材料を印象材といいます。金属や瀬戸物などに置き換える型取りをするわけですから、印象材は精度のより高いものが求められます。

一般的な印象材としては、アルギン酸塩と石膏を主成分としたアルギン酸印象材がコストも安く、操作も簡単なので広く使われていますが、精度の点ではもっと優れた印象材があります。コストは高くなりますが、シリコンを主成分としたシリコン印象材です。シリコン印象材は三十数年前歯科界に登場し、当初の縮合重合型からビニル基と水素基の

付加重合である付加重合型へと進化しながら精密印象材として多くの歯医者さんに使われてきましたが、最後に残された問題点は疎水性ということです。

歯科の臨床において疎水性ということは印象採得時に出血や浸出液の影響で細部の精密な印象が採りにくくなります。そこで歯医者さんは出血や浸出液の影響を受けない工夫をすることになりますが、このあたりが歯医者さんの技術ということになってきます。歯科材料メーカーとしてはシリコン印象材に界面活性



剤を配合することで親水性を出すよう改良してきましたが根本の解決にはなっていません。また、印象を採った後、上手く印象が採れたかどうか歯医者さんがチェックするとき界面活性剤が入っていると印象全体が光って見え、細部が見にくくなります。細部を精密に印象したいのに、その細部のチェックがしづらいということなのです。

一方、親水性のあるゴム質の精密印象材としてポリエーテルを主成分とするポリエーテル印象材がありますが、この印象材は硬化後の硬度が高いため、歯の膨らみの下部を再現するにはシリコン印象材の方が優れています。

これらの問題点を解決した超親水性精密印象材「フュージョン」は、シリコン印象材として全く新しい技術で親水性の獲得に成功し、クラウンブリッジの印象で最も重要なマージン部を極めて高い精度で再現することになりました。

わが社ではこの「フュージョン」に用いている技術を「Self-Wetting Technology」と命名し、その基本技術については特許出願中で、独自の処方、反応様式により構成されています。このユニークな技術により、これまで不可能であ

ったポリエーテル印象材の高い親水性と付加型シリコン印象材の寸法安定性、弾性性質を合わせ持つ全く新しいハイブリット精密印象材の開発が実現できました。「フュージョン」はこれまでにない口腔内細部にわたる鮮明な印象採得を可能とし、その結果、従来より高い信頼性を有した歯科治療の一助になるものと信じています。

2005年3月の入会者紹介

2005年3月3日の理事会において、下記の通り正会員35名、準会員1名の入会が承認されました。

(正会員35名) 浦 聖治(クオリティ) 内田 英夫(松下電器産業) 小野 正巳(東芝マイクロエレクトロニクス) 竹村 彰通(東京大学) 横井 尚子(組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会) 篠沢 達也(日立ビジネスソリューション) 鈴木 聡(日本たばこ産業) 吉澤 智美・中條 貴幸

(NECエレクトロニクス) 片山 泰三(ソニー) 猪塚 修(横河システムエンジニアリング) 堀 明広(パナソニックMSE) 真野 俊樹(日本電気) 馬場 秀一(ティーエム・ティーアンドディー) 上村 昌宏・渡邊 恒文・岡崎 靖子(日本アイ・ピー・エム) 若林 広二(日本大学) 大西 建児(豆蔵) 森本 千佳子(TIS) 古川 善吾(香川大学) 笹部 進(日本電気通信システム) 大迫 安夫(アイシン高丘) 荒井 和巳(コニカミノルタ物流) 野中 誠(東洋大学) 二上 貴夫(東洋テクニカ) 飯泉 紀子(日立ハイテクノロジー)

ーズ) 奈良 隆正(日立システムアンドサービス) 田淵 秀之(みずほ情報総研) 古賀 恵子(日立製作所) 宮川 純市(日本ノーベル) 片岡 信弘(東海大学) 堀田 勝美(コンピュータジャパン) 田村 智幸(NTTコムウェア) 秋山 浩一(富士ゼロックス)

(準会員1名) 河野 哲也(電気通信大学)

正会員：3000名
準会員：126名
賛助会員：171社198口
公共会員：22口

行 事 案 内

第77回研究発表会(本部)

日 時：2005年5月27日(金)・28日(土)
会 場：日本科学技術連盟・千駄ヶ谷本部
プログラム：

- ・5月27日(金)
 - 10:00～11:15 チュートリアルセッションA
「知識の構造化によるトラブルの予測と未然防止」
田村泰彦氏(株)構造化知識研究所)
 - 11:25～12:40 チュートリアルセッションB
「リコーにおける品質関連教育とその展開」
永原賢造氏(株)リコー)
 - 13:30～18:20 研究発表会 2会場
 - 18:30～20:00 懇 親 会
- ・5月28日(土)
 - 10:00～16:40 研究発表会 4会場

参加費：

チュートリアルセッション・研究発表会
会 員6,500円 非 会 員8,500円
準会員3,000円 一般学生4,000円
研究発表会のみ(1日参加/2日参加とも)
会 員4,500円 非 会 員6,500円
準会員2,000円 一般学生3,000円
懇親会
会 員・非 会 員4,000円
準会員・一般学生2,000円
申込受付：当日受付もいたしますが、お
早めにお申し込みください。
申込方法：ホームページから申し込みでき
ます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第305回事業所見学会(本部)

テーマ：NPW(日産生産方式)の具現
化によるQCTの向上
日 時：2005年6月17日(金)13:20～16:30
見学先：日産自動車(株) 栃木工場
定 員：30名(会員優先)
参加費：会 員2,500円 準 会 員1,500円
非会員3,500円 一般学生2,000円
当日払い

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、
報文、技術ノート、調査研究論文、
応用研究論文、投稿論説、
クオリティレポート、レター、
QCサロンです。

論文誌編集委員会

申込締切：6月16日(木)到着分
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX
にてお申し込みください。

ISO9000s審査員のためのTQM基礎講座
(本部)

- 毎月1回6回開催・会員優先 -
時 間：毎回9:30～12:30
講義1時間30分、演習1時間、質疑
CPDの証明時間は3時間です。
会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル2階講堂

プログラム：

- 第3回 6月18日(土)
TQMの活動要素(1) - 日常管理と標準化
担当：平林良人氏(株)テクノファ)
- 第4回 7月23日(土)
TQMの活動要素(2) - 方針管理と改善活動
担当：村川賢司氏(前田建設工業(株))
- 第5回 8月27日(土)
TQMの活動要素(3) - 品質保証と新製品開発
担当：棟近雅彦氏(早稲田大学)
- 第6回 9月10日(土)
標準化をめぐる最近の動向
担当：矢野友三郎氏(経済産業省)

定 員：毎回先着100名

参加費：会 員4,000円(各回)
非会員8,000円(各回)

申込締切：各回とも開催の1週間前
申込方法：ホームページから申し込みでき
ます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第310回事業所見学会(中部)予告

日 時：2005年7月1日(金)午後
見学先：シャープ亀山工場
定 員：40名(会員優先)
参加費：会 員2,500円 準 会 員1,500円
非会員4,000円 一般学生2,000円
申込方法：後日ご案内いたします。
お問い合わせは中部支部まで。

第103回シンポジウム(本部)

テーマ：ISO9001/9004の最新動向
- 次期改訂に向けて -
日 時：2005年7月4日(月)10:00～17:00
会 場：日本科学未来館
「みらいCANホール」
プログラム：
「ISO9001/9004の2008年改訂をめぐって」
飯塚悦功氏(東京大学)
「TC176/SC2報告 ISO9001改訂の仕様」

平林良人氏(株)テクノファ)
「TC176/SC2報告 ISO9004改訂の仕様」
住本 守氏(製品評価技術基盤機構)
「JIS/TR Q 0005(改訂版)：持続可
能な成長の指針」
飯塚悦功氏
「JIS/TR Q 0006(改訂版)：自己評
価の指針」

福丸典芳氏(南福丸マネジメントテクノ)
定 員：300名
参加費：会 員5,000円(締切後5,500円)
非会員7,000円(締切後7,500円)
準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切：2005年6月27日(月)

申込方法：

同封の参加申込書にご記入の上、本部
事務局までお申し込みください。ホー
ムページからもお申し込みできます。
<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

第78回研究発表会(中部)発表募集

日 時：2005年9月7日(水)10:15～17:15
会 場：朝日大学

申込締切：

発表申込締切：6月17日(金)
予稿原稿締切：8月 2日(火)必着
参加申込締切：8月26日(金)

研究/事例発表の申込方法：

4月発行[品質]誌同封の発表申込要領
をご覧ください。

参加申込方法：

7月送付予定の参加申込書にご記入の
上、中部事務局までお申し込みくだ
さい。

行 事 申 込 先

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル内
(社)日本品質管理学会
TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail: apply@jsqc.org
事務局携帯：090-9128-7979
中部支部：460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
白川ビル別館
(財)日本規格協会 名古屋支部内
(社)日本品質管理学会 中部支部
TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail: nagoya51@jsa.or.jp